

Breakthrough

No. 8

■受験を意識した生活をしよう

入学の際に話したように、入学の目的は卒業です。卒業後の自分自身を考えていますか。高校卒業後、あなたはどこで、何をしていますか。何学部は何学科で学んでいますか。大学はどこに通っていますか。また、10年後はどのような生活をしていきたいですか。20年、30年後はどうですか。真剣に自分の将来について考える時期です。自分の目標を設定し、受験を意識した生活を送るようにしましょう。

11月初め模擬試験は、受験への仕切り線です。進研模試から2週間たちましたが、見直しはしましたか。模試の必要性を改めて確認してください。後日、結果が戻ってきた際に模試を有効的に活用してください。

模試で大学入試をイメージできましたか

◆定期テストとの違いを実感できたか？

例えば、英語の長文で、これまで見たとがなない構文が使われていたり、数学で、1つの公式だけでは途中までしか解けなかったり…。定期テストと違って「これ習ったっけ？」と戸惑ってしまうような問題が、入試では当然のように、しかも広範囲から出題される。そのような問題を解くために、幅広く、そして深い知識が必要であることを実感できたでしょうか？

◆入試で必要となる受験科目を意識できたか？

これまで「科目」と言えば「好き嫌い」「得意・苦手」、「明日は何の授業があったっけ？」という程度の意識だったのではないだろうか。しかし、今回の模試をはじめ、これまで模試で受験してきたそれぞれの科目は、将来、入試で受験する科目になるかもしれません。今回の模試でも、こうした意識を持って受験することができたでしょうか？

◆入試で問われるポイントをつかめたか？

今回の模試でも、問題を見てまず「どうやって解くの？」と考えたはず。同じように、入試でもまず「どうやって解く」という段階から考え、今までに習った知識を組み合わせながら、工夫をして問題を解く力が求められる。今回の模試の問題から、そのような「入試で問われるポイント」をつかめたでしょうか？

◆入試につながる勉強の仕方が意識できたか？

模試の問題は、これまでに習ったことを確認したり、理解しやすくしたりするためだけでなく、習ったことをどう使えば入試に対応できるかが身につくように考えられている。つまり、今回の模試で「できなかった」と感じた部分は、そのまま入試に向けて補うべき弱点ということ。そこをきちんと復習しておくことが入試につながることだと意識できたでしょうか？

『2017年度11月 高2進研模試 解答解説』より

模試からわかること

Qなぜ、なかなか模試の成績が上がらないの？

受験生はたいてい、努力しただけで右肩上がりに学力が伸びていくものとイメージしがちだが、勉強したことが身につき、実際に“解答作成力”として使いこなせるになるまでには、ある程度の時間がかかる。だから、「基礎固め」が終わったばかりの段階では、思うように模試の結果が出ないが、いったん理解が進めば、そこで飛躍的に学力がアップするという。つまり、**階段を登るように伸びていく。**

Q判定以外に、成績表のどこをみればいいの？

模試の成績表の中で注目したいのは、受けた科目の**問題別・分野別の得点と正答率**。自分の弱点がどこにあるか、不得意分野はどれか、どの分野の対策が遅れているかがわかる。学習到達度を示すデータとして、今後の学習計画に反映させよう。

Q模試で大事なものは、成績表だけですか？

さらに大事なのが、採点された答案そのものだ。きちんと活用すれば、受験生にとって「**最強の教材**」となる。どこが間違ったのか確認し、復習し、次は間違わないようにする…。誤答こそが、学力を伸ばす“**栄養源**”なのだ。

例えば、マーク式の模試であれば、受けた直後に、問題用紙に**自分がマークした選択肢に○**、迷った末にやめた**第2候補の選択肢に△**をつけておく。解答返却後に、正解を見ながら照らし合わせ、間違った問題に△の選択肢があれば、どれだけ取りこぼしたかがわかる。そこを復習すれば、今後の“伸びしろ”にできる。

模試のプロがデータを説く

河合塾 進学教育事業本部 校舎企画部長 中島真寿子さん

どうしても偏差値や志望校判定に目が行きがちですが、まずは自分の成績をきちんと読み解きましょう。設問別の成績を見て、どの科目・分野ができて、どの科目・分野ができなかったのかを把握してください。

成績表だけをざっと見て終わりの人は意外と多いのですが、私は「もったいないなあ」と思います。模試の問題は、過去の答案を分析して蓄積したデータから、受験生の苦手な面も的確に把握したうえで、大学入試までの到達レベルに見合った出題を行っていますので、良問がそろっています。**模試の問題ほど優れた問題集はありません。**

河合塾に通っている塾生の模試の復習状況を確認すると「受験科目のすべてをやり直した」「不得意科目・成績の悪かった科目についてやり直した」と答える生徒の方が、「答え合わせをした」だけの生徒より、確実に成績を伸ばしていることがわかっています。正解した問題でも、実は曖昧な知識と推測で得点できた問題もあるはずですから、「できる」と「できない」を区別するためにも「やり直し」は必要です。

河合塾では、模試は3回復習することを勧めています。**①模試受験直後、②成績資料返却後、③長期休暇中**です。それぞれの時点で、「できた問題」と「できなかった問題」をわかるようにしておくと、復習の回数が増えるにつれて、できる問題が増えていくのが目に見えてわかります。

旺文社『螢雪時代 2017』10月号より抜粋